

県内企業景気動向調査

結果の概要

調査の目的

県内に本社を置いて企業活動を営む法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、県内景気の動向について把握するために実施した。

調査の方法

オンライン・アンケート(761社)並びにヒアリング(28社)

オンライン・アンケートの集計方法

すべての質問項目についてDI(Diffusion Index)値を求める。たとえば、各社の業況を示す「自社の業況DI値」の算出方法は次の通り。

「自社の業況DI値」=(「良い」と回答した企業の割合)
- (「悪い」と回答した企業の割合)

調査時点

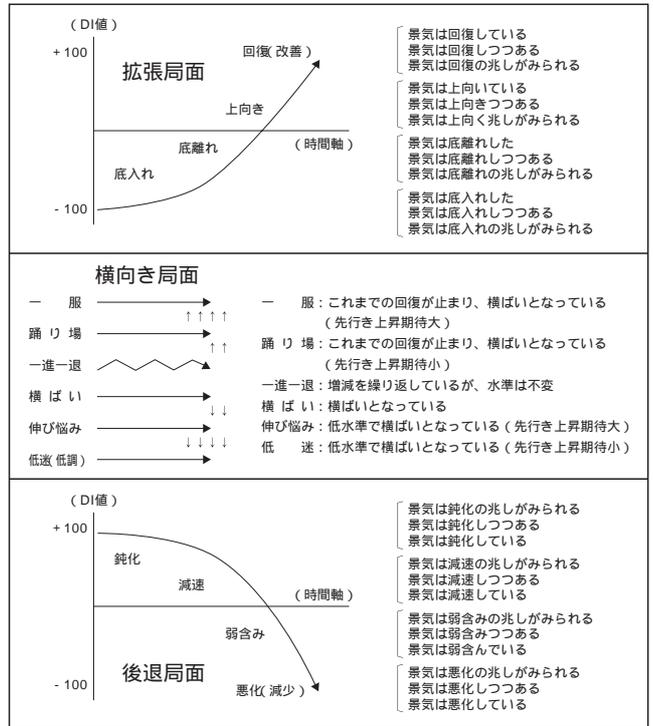
オンライン調査:平成17年8月1日(月)~10日(水)

ヒアリング調査:平成17年8月24日(水)~9月9日(金)

地域区分

地域名	対象となる市町村名
村山南部	山形市、上市市、山辺町、中山町
村山北部	寒河江市、村山市、天童市、東根市、尾花沢市、河北町、西川町、朝日町、大江町、大石田町
最上	新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村
置賜	米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町
庄内田川	鶴岡市、庄内町、三川町
庄内飽海	酒田市、八幡町、遊佐町、松山町、平田町

判断用語の凡例



景気の天気図

天気図とは、地域別・業種別の景気動向を見比べるため、自社の業況DI値(前期比)を5段階に分けて図解したもの。「天気図の凡例」をご参照のこと。

天気図の凡例

特に好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
DI 30	30 > DI 10	10 > DI 10	10 > DI 30	30 > DI

(前回調査)

	全業種	建設業	製造業	卸・小売業	サービス業
山形県					
村山南部					
村山北部					
最上					
置賜					
庄内田川					
庄内飽海					

(今回調査)

	全業種	建設業	製造業	卸・小売業	サービス業
山形県					
村山南部					
村山北部					
最上					
置賜					
庄内田川					
庄内飽海					

全業種（回答企業404社、回答率53.1%）

現状判断：低水準で一進一退の動きを見せている。

業況は、自社の業況DI値（前期比）が 1.5となっており、前回調査時点より5.6ポイント改善した。しかし、依然として水面下を脱するまでには至っておらず、一進一退の動きを見せている。

業種別では、前回一服感の見られた製造業で再び回復しつつあるほか、卸・小売業でも景気は上向きつつある。そのほかの業種は概ね前回調査と同様。

来期見通し：底離れの兆しも見られる。

業況の先行き見通しは、自社の業況DI値が0.7となっており、わずかながら底入れの兆しも見られる。

業種別では、製造業で引き続き回復する見込みが高いほか、本格的な観光・レジャーシーズンをむかえるサービス業でも回復への期待感が高い。卸・小売業はお盆明け以降の息切れもやや目立つが、概ね横ばい。建設業は受注状況の改善も見込みがたく、低迷の見込み。

地域別の動向：最上の悪化が目立つ。

地域別では、村山南部で好調を維持しているほか、置賜でもDI値がプラスに転じるなど概ね改善しつつあるが、最上では建設業が低調であることに加え、卸・小売業でも不振が目立つなど、悪化の傾向にある。

先行きの見通しは、村山南部と庄内田川で回復への期待感が強いほか、そのほかの地域では概ね横ばいで推移する見込み。

(前期比) (調査時点)	自社業況	売上高	営業利益	人員・人手	資金繰り
H17.05	7.1	12.1	22.9	1.1	14.1
H17.08	1.5	4.2	17.1	1.5	13.9
H17.11 (見通し)	0.7	6.2	12.6	7.7	21.8

建設業（回答企業100社、回答率54.9%）

現状判断：低迷している。

業況は、自社の業況DI値（前期比）が 22.0となっており、前回より5.0ポイント改善したものの、依然として低迷している。

民間工事は堅調だが、公共工事のボリュームが減っていること、原油等の原材料価格が引き続き高値で推移しており利益を圧縮していることなどが原因。例年に比べて公共工事の発注が出遅れ気味との声もある。

来期見通し：悪化が見込まれる。

業況の先行き見通しは、自社の業況DI値が 34.0となっており、引き続き低迷の見込み。

来期への繰り越し工事もさほど見込めないこと、また、7月以降の公共工事の発注についても、需給ギャップを解消できるほどのボリュームが見込めないことなどが主な原因。手持工事高DI値は 33.0、完成工事高DI値は 35.0といずれも悪化予想。

地域別の動向：庄内田川・飽海で悪化している。

地域別では、依然として低い水準にはあるものの、村山南部・北部、最上では概ね横ばいで推移しているほか、置賜では底入れの兆しも見られる。一方、庄内田川・飽海では引き続き悪化している。

先行きの見通しは、置賜と庄内飽海で横ばいとなっているが、そのほかの地域では悪化予想となっており、弱気な見通しが多数を占めている。

(前期比) (調査時点)	自社業況	業界業況	完成工事高	営業利益	手持工事高	人員・人手	資金繰り
H17.05	27.0	61.5	29.8	41.4	39.5	14.5	25.0
H17.08	22.0	50.0	28.0	45.0	22.0	16.0	27.0
H17.11 (見通し)	34.0	57.0	35.0	39.0	33.0	22.0	44.0

← 景気動向を図解!! →

製造業（回答企業117社、回答率57.6%）

現状判断：景気は回復しつつある。

業況は、自社の業況DI値（前期比）が8.6となっており、前回より12.3ポイント改善するなど、景気はふたたび回復軌道に戻りつつある。

全体的に売上も伸びており、売上高DI値は0.8と前回より改善した。ただ、一部原材料価格も引き続き高値で推移しているなど、収益の確保が難しい状況も続いている。営業利益DI値は 8.6であった。

来期見通し：引き続き回復する見込み。

業況の先行き見通しは、自社の業況DI値が27.4となっており、引き続き回復するとの見方が多数を占めている。

輸送機械関連業種や電子部品・電気機械関連業種でしばらく好調を維持すると思われることに加え、これまで盛り上がりや欠いていた飲料・食料品関連業種でも復調の兆しが伺われることなどが主な要因。

地域別の動向：庄内飽海の好調が目立つ。

地域別では、村山南部と最上で前回に引き続き一服感が見られるものの、そのほかの地域では概ね回復しつつある。中でも庄内飽海のDI値が30.4となるなど、好調さが目立った。

来期の見通しは、各地域とも回復基調に戻るか、引き続き好調を維持する見込み。庄内飽海ではDI値が48.0と最も高かった。

（前期比） （調査時点）	自社業況	業界業況	売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員・人手	資金繰り
H17.05	3.7	13.5	6.0	15.0	43.6	12.0	3.8	5.3
H17.08	8.6	10.3	0.8	8.6	51.3	4.3	1.7	9.4
H17.11 （見通し）	27.4	0.9	11.1	5.1	42.7	23.1	2.6	11.2

卸・小売業（回答企業93社、回答率50.3%）

現状判断：景気は上向きつつある。

業況は、自社の業況DI値（前期比）が6.5となっており、前回より4.7ポイント改善するなど景気は上向きつつある。

特に、好調な製造業の設備投資などに牽引される形で機械器具卸ならびに産業用電気機器卸などの一部で好調さが目立っている。また、商品ごとのバラツキはあるものの、食品小売、家電販売も概ね堅調。

来期見通し：回復も横ばいで推移する見込み。

業況の先行き見通しは、自社の業況DI値が0.0となっており、回復も横ばいで推移する見込み。

今期好調であった機械器具卸ならびに産業用電気機器卸などは引き続き好調を維持するものの、個人消費関連の小売業を中心にお盆以降の息切れ感も懸念される。売上高DI値は今期より17.2ポイント悪化予想の2.1であった。

地域別の動向：最上・庄内飽海で不振も、概ね好調。

地域別では、全般的にDI値はプラスとなっており、好調な地域が多かった。ただ、最上と庄内飽海でDI値がそれぞれ 57.1、 6.7となるなど、不振も目立った。

来期の見通しは、村山南部で好調を維持する見込みとなっているほかは、若干弱含みの予想。最上は 42.8となるなど、引き続き低調であった。

（前期比） （調査時点）	自社業況	業界業況	売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員・人手	資金繰り
H17.05	1.8	23.7	1.9	15.4	34.5	6.3	8.2	15.4
H17.08	6.5	13.9	15.1	6.5	28.0	7.6	2.2	5.4
H17.11 （見通し）	0.0	12.9	2.1	12.9	31.2	35.5	2.2	17.2

各業種別分析

現在とこれからを徹底調査!!

サービス業（回答企業94社、回答率49.2%）

特別調査：人民元切り上げの影響について

現状判断：横ばいで推移している。

業況は、自社の業況DI値（前期比）が0.0となっており、前回より1.0ポイント改善するなど、概ね横ばいで推移している。

季節的な要因もあり、全般的な需要は対個人サービス業も対事業所サービス業も回復しつつあるが、依然として客単価の低迷によって売上は伸び悩んでいる。売上高DI値は 4.3であった。

来期見通し：上向く兆しが見られる。

業況の先行き見通しは、自社の業況DI値が5.3となっており、上向く兆しが見られる。

夏から秋にかけて観光・レジャー関連需要の本格的な盛り上がりが見られることから、宿泊・飲食・観光関連施設など、対個人サービス業では概ね堅調な売上が期待できることが主な原因。対事業所サービス業でも急な落ち込みは予想されにくい。

地域別の動向：村山南部と最上で上向いている。

地域別では、村山南部と置賜で上向いているほか、最上も底離れしつつある。ただ、このほかの地域ではDI値が概ね水面下となっており、低調であった。

来期の見通しは、村山南部で引き続き好調を維持する見込みとなっているほか、庄内田川・飽海でもDI値がプラスに転じる予想となるなど、明るい見通しが多い。

（前期比） （調査時点）	自社業況	業界業況	売上高	営業利益	人員・人手	資金繰り
H17.05	1.0	28.0	13.1	22.4	5.6	13.1
H17.08	0.0	24.5	4.3	8.6	11.7	13.8
H17.11 （見通し）	5.3	20.2	1.1	6.5	2.1	16.0

人民元切り上げの影響は軽微

ビジネスを展開する上で、中国との関わりが少なからずあると回答した県内企業（93社）に対し、7月に実施された中国通貨人民元の2%の切り上げが現時点で何らかの影響があるかどうか聞いたところ、「影響はない」と回答した企業は88.2%にのぼり、「マイナスである」（11.8%）、「プラスである」（0.0%）をそれぞれ大きく上回った（図1）。

また、今後さらなる人民元の切り上げが実施された場合に影響が出るかどうか聞いたところ、それでも「影響はない」と回答した企業は73.1%と多かったが、「マイナスである」と回答した企業は21.5%に増え、「プラスである」と回答した企業も5.4%に増えた（図2）。

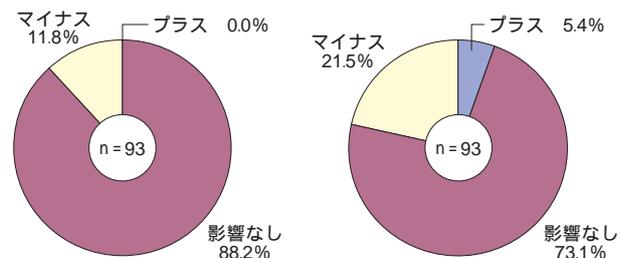


図1 7月の人民元切り上げの影響 図2 さらに人民元切り上げの影響

（注）このレポートは、弊社の会員向けサービスの一環として実施している「県内企業景気動向調査」（確報版）の概要です。詳しい内容をご覧になりたい方は、会員専用ホームページ（<http://www.sfsi.co.jp/>）へアクセスしてください。

なお、レポートの内容に関するご質問は下記までお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

研究開発グループ 熊本・齋藤（信）

TEL：023(626)9017

e-mail：fns@sfsi.co.jp